

# 平成15年度ふるさと上越ネットワーク総会開催

総会に先立ち、理事会が開催されました。

## 理事会開催

五月二十四日、アルカディア市ヶ谷（東京都千代田区九段北）において、会員約九十名が参加し、平成十五年度ふるさと上越ネットワーク総会が開かれました。

た。

引き続き行われた意見交換では、活発な意見が出されました。

総会では、太田会長の挨拶、（次頁に詳細を掲載）平成十四年度事業報告、平成十五年度事業計画、予算について審議され、役員の一部改選を含め、全ての議案が承認されました。



# 会長挨拶

Jネット会長

## 太田四郎

(本町五丁目出身)

ただいまご紹介いただきました、太田でござります。ちょっとと声をからしておりますので、お聞き苦しい点があるかと思いますが失礼いたします。

本日は、ご多忙の中、平成十五年度の総会にご来賓を始め、多数の会員の皆様方にご出席をいただきまして、誠にありがとうございます。開会にあたりまして一言ご挨拶申し上げます。

ふるさと上越ネットワークにつきましては、平成九年発足以來、おかげさまで満六年を経過いたしました。七年目を迎えることになります。七回目の総会でございます。

この間、皆様方のご協力によりまして、各事業まちづくりの協力ということがひとつの大好きな使命でございます。「灯台下暗し」という言葉がございますが、地元おりりますと当たり前と思つてゐることも多いわけでございますが、外の内容も充実してまいりました。特に年二回の会報、あるいは、毎月のJネットだよりにつきましても、編集関係の皆さんの積極的な紙面づくりにおきまして、会員からも投稿や生の声が盛り込まれまして、親しみ深いものになっており

ます。また東京を始め、各地のJネットサロンにつきましては年を経るに従いまして次第に盛況になり、参加の皆さんも増えておりまして交流の場が広がつていて次第でございます。

Jネットにおきましては、ふるさと上越へのまちづくりの協力ということがひとつの大好きな使命でございます。「灯台下暗し」という言葉がございますが、地元おりますと当たり前と思つてゐることも多いわけでございますが、外に住んでいる人から見ますと意外と思われるところが多くあります。したがいまして、外からの提言がおおいに役立つこともあるのではないかと思われ、ここが上越ネットワークの皆様方の使命の發揮しどころだと思っております。

このようなことから、やはり、会員の皆さんのが、現在お住まいのところの最新情報を発信していただくこともこれからは大事なことではなかろうかと思つております。私事になつて恐縮でございますが、現在名古屋におるわけでございますが、二年後に愛知県では今世紀最初の世界博覧会が開催されることになつております。名誉会長が皇太子殿下ということで、内閣総理大臣も昨年の十月においてになり、国を上げての博覧会でございますが、100カ国以上が参加し



まして、世界の人々が大交流をすると。そして、皆で地球を大事にしようという

のがテーマでございます。

そして、愛知県にちなみま

して、「愛・地球博」という

のが愛称となつております。

て、この九月から前売りが

始まるという状況でござい

ます。

この世界博のP.R.のために私も愛知県知事のほうから「愛・地球博・ふるさと大使」というのを委嘱されておりまして、新潟県関係の会合その他についておおいにP.R.してくれど、いうことになっております。したがいまして本日も総会資料の中に「愛・地球博」と言うパンフレットを入れさせていただいておりますので、ぜひ二年後には「愛・地球博」においてになられて、世界各地の文化、あるいは芸術、そういうものの知見を得られまして、いい情報を発信していただければと存じております。

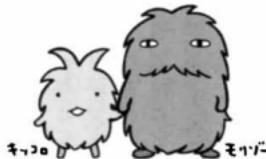
話が前後して恐縮でございますが、最近、Jネットの会員数が残念ながら減少傾向にござります。会員数はJネットにとりまして、発展の大重要な要でござります。毎度お願ひいたしておりますが、お知り合いの方々にご紹介いただくとか、あるいは同窓会、その他の集まりでJネットの入会をお説いていただくなど、ひとつご協力のほど、お



願い申し上げたいと思います。

本日は年一度の総会・懇親会でございます。世の中非常に不況の最中にござります。非常に暗い話題の多いこの頃でございますが、ひとつ、Jネットのきずなで結ばれた皆様方が、同じ言葉で心の知れた間柄で、今晚は明るくお過ごしいただければと存じております。

最後になりましたが、ご参加いただいた皆様のますますのご健勝・ご活躍、そして、合わせてJネットの発展を祈念いたしまして、ご挨拶とさせていただきます。どうもありがとうございました。



# 来賓祝辞

上越市長

## 木浦正幸

皆様方、こんにちは。ただいま、紹介にあづかりました。上越市長を務めております木浦正幸でございます。理事会には何度も出席させていただきましたが、総会には初めてということです。若干、自己紹介をさせていただければ幸いかと思つております。

昭和二十七年生まれで、ちょうど五十になつたばかりでございます。直江津高校、日大出身でございまして、住まいは直江津地区の国道8号線沿いにございます。

活動としましては、青年会議所活動を十三年間ずっとやつてまいりました。そして一番最後に、北陸信越の六千五百名の会長に就任させていただきました。ちょうどその時に、前の県会議員でおられました古川涉先生がお亡くなりになりました。青年会議所の会員の時に上越市の議に当選し、二期務めさせていただきました。そして、十三年の十月の選挙で市長に就任させて

いたいたわけでございます。

職業と申しますか、保育園の園長を務めておりました。そういう意味では、普通の庶民として市長に就任いたしました。生活者の視点で市政をえていきたいということで立候補しまして、当選をさせていただいたわけであります。

以来、一年半、市長に就任しておりますけれども、県議とは違いまして、なかなか充電の時間がないということを痛切に感じております。

時代が二十一世紀に入りまして三年経つてますけれども、やはり、時代が変わつてきているということを市民の皆さんにお伝えしながら、「主役は市民である」という市民中心、市民本位の市政を展開していくことを、スタートを切らせていただきました。

さて、今日は一年に一回の総会ということで、ご盛会を心からお喜び申し上げる次第でございます。今年の四月十一日に、ふるさと交流会で二

十数名の方が高田の観桜会においてになりました。私もその会に出席させていただきました。おかげさまで観桜会も、近年、大勢の人においては、善光寺のご開帳の時期とちょうど重なりまして、七十六万人の観光客を数えることになりました。富山や金沢、関西方面からもバスで大勢の方においていただきました。観光バスが一〇三台という、いまだかつてない大変な賑わいでございました。今後とも、上越の個性・特性を活かした地域づくり、まちづくりにぜひ力を入れて参りたいと思っております。

最近の大きな動きといったしましては、市町村合併がございます。おかげさまで、現在は住民合併協議会をいつたん終了し、法定合併協議会に進む準備会ということで、その準備会を開催し



人ということで、いよいよ二十万人を突破いたします。面積で申しますと、今の<sup>9</sup>倍、249・3平方キロメートルが972・63平方キロメートルということで、全国的にも大変大きな面積を所有する都市となります。

合併方式につきましては編入ということで、十三町村が上越市に行政サービスを合わせていただくというやり方でございます。

今のところ、平成十七年の一月一日を目標にしながら合併していくこととに決まっています。

それから、今までほどちらかと言いますと、この中山間地域はコストがかかつて、お荷物であるというような言い方がされておりました。しかし、21世紀はそうではなくて、この森林資源、山間地を宝物にしていかなければならないといふことで、私も提案させていただいております。つまり、森林の保水能力です。上越地域は全國にも大変珍しい、飲み水が足りない地域でございます。平成六年の渴水期には、市民の皆さんに大変ご難儀をおかけいたしましたが、そういう意味で、森林資源に手を加えて、今の針葉樹を中心のものを落葉樹や広葉樹に植え替えることによって、保水能力を高めていく。そうして、森林をもう一度立ち直らせていくということをございます。

十四市町村ということでその内訳を申し上げますと、東頸城からは四市町村。松代町・松之山町は十日町との合併を協議されています。中頸城郡からは妙高村・妙高高原町を除いて、八町村。そして西頸城郡からは名立町。これらと上越市を合わせて十四市町村になります。

人口に関しましては、現在の上越市の人口は十三万五千人でございますが、これがめでたく合併となりますと、<sup>1.6</sup>倍の二十一万一千八百七十

排出削減が売買されるような時代になつておりますから、ぜひこういった意味で、森林や水、これを資源として活かしていきたいと私は提案をしております。

また、先ほども会長からお話をございましたように、現在、経済状況がなかなか厳しいわけでございます。自治体としてもまったく同じ状況で、そういう意味では、もう一度原点に立ち返る、つまり産業振興が重要となつてきます。それの中、中小企業の会社の皆さん、民間の会社の皆さんに、しっかりとお金儲けをしていただけるような、そういう産業振興を通じて、民間の方々が投資しやすいような環境を役所がつくついく。このことによって、経済活動が盛んになつて、いくようにということを前面に打ち出しまして、自主財源を作っていくことが重要でございます。今、小泉改革が叫ばれておりますけれども、実質といたしましては、権限は委譲されておりま



ですが、財源が一緒ではないということから、地方の自治体が自治体運営をしていくには、大変厳しい状態でございます。やはり自分で稼げる財源、つまり自主財源をしっかりと確保できるようなしあげ・仕組み、これをとつていかなければ、持続して発展するような自治体運営はできないということから、産業振興を一番の大きな柱にさせていただいて、この行政が民間の方々を支援していくことで頑張らせていただいております。

に、この地方自治をしていく中では税収が上がつていいかない。国からの交付税や補助金が削減傾向である時に、将来展望した場合、近隣の町村から立ち行かなくなるという状況が予測できます。上越だけで単独で成り立っていくことは可能ですが、しかしながら、頸城平野は一体になつております。通学、ショッピング、それから施設の利用、病院利用率、そういうもののすべてを見た場合、その周辺の町村の方々の存在を無視して、上越だけで成り立つというわけにはい

今の一九二十一世紀の時代こそ、地域の特性・個性・これを活かしていく時代がきてはいるのではないかと思つております。皆様方の貴重なご提言を、ぜひとも引き続きお願いをしてまいりたい、そしていつでも、皆様方に帰ってきていただけるふるさとが光り輝けるように、これからも誠心誠意、作させていただきたいと、こういうふうに思つて次第でござります。

最後に、このJネットのますますのご発展と、そして会員の皆様方のご健勝を心からお祈りを申し上げまして、私の一言のご挨拶に代えさせていただきたいと思ひます。本日は誠におめでとうございました。

ご存知でいらっしゃいますが、水素ガスを木屑や廃材から抽出いたしまして、燃料電池にして、バイオマス研究をたちあげて頑張つていらっしゃる状況です。

そういう意味では、遅かれ早かれ、立ち行かな  
い状態がきた場合には、上越市にも影響は来る  
ということで、むしろそういう状況なのであれ  
ば、先取りをして、体质強化・体质改善をして  
いったらどうかということで、私は提案をさせ  
ていただきております。

今年一月にアイスランドの首相が来日されました時に、私も寄せていただきました。現在、アイスランドも国を上げて、水素ガス・燃料電池の研究をしておられます。そこで、上越が手を上げて、大変タイミングがよかつたのですが、アイスランドとともに研究開発をしていこうというところで、新しい産業もおきてきているところです。

そういうわけで、持続的に発展していく地域を作っていくために、産業振興というものに力を入れて頑張つていこうというところでござります。



ちょうどまた、皆さんの事業でまちづくりの提言支援活動をしていただいております。各種

# 意見交換会

太田会長：せつかくの機会でございま  
す。Jネットへのご意見・ご提案、また  
本日はわざわざ木浦市長がお見えになつ  
ております。ふるさとのまちづくりに  
関してのご意見やご提案などございまし  
たら挙手の上、ご発言いただきたいと思  
います。六時十五分までもう二十分ほど  
ございますがよろしくお願ひいたします。

青田川にとんぼを・  
安藤さん：東本町三丁目の出身で、現  
在さいたま市におります、安藤でござい  
ます。たまたま機会がありまして、四年  
ほど前に東京都の一周、それからつい最  
近前橋と高崎の上空をずっとヘリで見る  
機会がありました。それを見て、はじめ  
は面白いと思ってわくわくしたのです  
が、いずれも住宅沙漠でございます。こ

んなに惨めな格好になるのかと、しみじ  
み悲しく思いました。高田でも特に山麓  
線の西側のほうに住宅開発が進んでいる  
ようですが、ああいうふうな砂漠  
にならないようにご配慮願いたいと思  
います。それから、青田川でございますけ  
れども、今の青田川はただ水を流してい  
るだけで、あれはとんぼも何も住みま  
せんので、岡村さんの提案のように何  
メートルごとに堰を作つておけば清水帯  
ができるので、とんぼは必ず住めると思  
います。そういうふうなことをぜひお  
願いしたいと思います。以上でございま  
す。(拍手)

高橋部長：この四月に企画部長になり  
ました高橋でございます。若年者でござ  
いますが今後ともひとつよろしくお願ひ  
いたします。今ほどのご要望につきまし  
ては、関係部局をはじめ、意を尽くして

みんなに惨めな格好になるのかと、しみじ  
み悲しく思いました。高田でも特に山麓  
線の西側のほうに住宅開発が進んでいる  
ようですが、ああいうふうな砂漠  
にならないようにご配慮願いたいと思  
います。それから、青田川でございますけ  
れども、今の青田川はただ水を流してい  
るだけで、あれはとんぼも何も住みま  
せんので、岡村さんの提案のように何  
メートルごとに堰を作つておけば清水帯  
ができるので、とんぼは必ず住めると思  
います。そういうふうなことをぜひお  
願いしたいと思います。以上でございま  
す。(拍手)

我々のほうも検討させていただきたいと  
思いますのでよろしくお願ひいたします。

太田会長：安藤さん、今のご回答によ  
ります。青田川のことで何かご提  
案はあるですか。

安藤さん：それが、今眺めております  
と、たな水が流れているだけで非常に殺  
伐としております。あれをなんとかやつ  
ていただきたいと思うのです。

木浦市長：最初から私が答えておれば  
らのまちづくりにつなげていこうかとい  
うことで取り組みをすすめております。

青田川を愛する会という会もありま  
して、皆様方が一生懸命、川を単なる水が  
流れれる川ではなくて、今のご指摘のとお  
りにやつてることでございま

いつでも皆様方がお戻りになられた時に  
も、またゆっくりとお戻りになつていただける  
ようなまちづくりというものは、これからもすすめ  
ていきます。



す。しかし、途中で放水するために分水

をつくりましたので、なかなか水が少ないと、なにかあります。そこで私が

そこがネットなんだなって

いということがございまして、やはり、

私が聞いております。徐々に今、うちの課

長が申し上げたとおり、桜を植えたりし

て、その堤防を通るのに朝晩、散歩を

される方が非常に増えているという

ことで、少しずつ、川の中も昔のように

戻っていくようなど、皆さんの意見もございまして、その方向で行こうと思って

いるんですけども、なかなか基本的に

たくさんの水が流れる川ではないという

ことで、非常にそういったところで難し

い点も出てきているのかなとは思つてお

ります。おおむね、そういう方向で青田

川を愛する会の皆さんとともに、いろん

なアイデアを出して、また子供たちとともに、小学校の方を中心になりながら、

たくさん意見を出していたみたいで、それ

もに、太田会長の方があなたと一緒に、

うでござりますので、そういう方向で頑張つて行きたいと思いますので、よろしくお願いいたします。

太田会長： その他せつかくの機会でござります。はい、どうぞ。

### 火力発電所の見通しは？

松平さん： 黒井出身の松平でございます。私の家の裏が今、火力発電所ができるのでござりますけれども、私はこ

の会に入つてまいりましたのは、火力発

電所がどのようになっているのかお聞きしたいと、そういう動機で入りました。どの辺までですんでいるのか市長さんと会長さんにお聞きしたいと思います。

太田会長： いやいや、私は会社辞めた

もんで…（場内笑）。

木浦市長： 会長さん、直接の担当の会社でございますから、会長さんからお話をいただければと思うのですが辞められました、ということございましたから。

ちょうど、昨年の十月三十一日に三つの会社、つまり中部電力、東北電力、そして、ふたつの電力会社からつくられました、共同火力という会社が上越市長のところへ運転開始建設の延期を申し入れてまいりました。一号機が五年、そして三号機が八年ということで、それぞれ延びてしまふということです。

要するに会社側の皆さん、電力の自由化ということから、株主の皆さんに説明責任をしながら、会社の体質改善といふことで、そういう会社の方針を出されたわけでござります。しかし、私どもとしては、通常の民間の会社と違いましたして、そういう計画のとおりにやつてもならないと、私ども地域と約束をしておりますから、交付金のこととか、協力金によっていろんな事業を計画しておりますから、困るという話ですつときた

わけでございます。

つい先だって、運転開始の時期は平成24年に変わりはないんですけども、建設を前倒しにして開始していただく。すなわち、平成十九年の三月に一年と五ヶ月、建設時期を早めていたたくなればと思つたのですが、これが決して、交付金のお金が下りてくるのが、その種音が聞こえないとためだということから、私どもも

そのような3つの会社にお願いしてきた

ところでござります。

そういう意味では、平成十九年の三月から建設を始めるということで、私どもも苦渋の選択といいますか、このまま約束どおりにやつていただければいいのですが、ありますけれども、そうではないといふ会社の事情を、苦渋の選択の中で選択させていただいたということでございま

す。

そして、今懸念でございました、埋め立てをしていく工業地の埋め立てについては、平成十四、十五、十六の三ヵ年で行なうことは変わりなく今すんでいますわけでござります。後、二年、平成十五、十六と、だいぶ埋まつてきておりますけれど、順調に進んでおります。



○その後も新幹線の開業時期についてなど活発な意見交換がされました。（略）

# アトラクション『ふるさと上越公演会』 丸山おさむさん（声帯模写）熱演



平成十五年度ふるさと上越ネットワーク総会終了後、会場をとなりに移し、アトラクションとして、「ふるさと上越公演会」と銘うち、上越市出身の声帯模写・司会の丸山おさむさんから「何事も模倣から笑いとコミニケーション」の演題で公演していました。

## △プロフィール

最高レベルのモノマネと笑いをテレビのモノマネ番組では物足りない方へ

出生地 新潟県上越市（大町5）  
生年月日 昭和31年7月26日

家電メーカーのサラリーマンを経て素人コンテスト番組で優勝、笑いの道へ。世相風刺を折込んだモノマネのレパートリーは200人以上、3オクターブの歌唱力で文化人・評論家にファン多し。歌真似では史上初の文化庁芸術祭優秀賞受賞。講演会・研修会・ディナーショー・イベントアトラクション・ブライダルで活躍中。講演タイトル「何事も模倣から・笑いとコミュニケーション」ショータイトル「モノマネでつづる戦後歌謡史」



# 懇親会

★★★出席者全員へのおみやげ★★★

☆エスビーカレー

(エスビーカリー・リック食品(株)様より)

★★★利き酒コンテスト賞品★★★

☆4種類の地酒の利き酒

雪中梅(720ml)………3名

★★★ふるさと抽選会

★★★豪華抽選会賞品★★★

☆岩の原ワイン……………5人

☆雁木通り米5kg……………2名

☆くわどり湯ったり村宿泊券…2人

☆くわどり湯ったり村利用券…2人

おめでとうございます

ふるさと抽選会

総会につづき、懇親会が開催されました。  
今井副会長の挨拶のあと、野口相談役の「発声で  
乾杯により懇親会に入りました。

☆こんぶ野沢菜漬け  
(JAえちご上越様より)  
☆正善寺工房のフキ砂糖菓子





# 議事と平成15年度事業内容

## ◆交流事業

- (1) 第7回ふるさと交流（探訪）会  
①時期 4月11日（土）～12日（日）

- ②参加者 26人

- ③内容 高田公園Jネット記念樹前に現地集合

- 高田城址夜桜見学・桑取湯つたり村

- （朝市）上越市埋蔵文化財センター見学・  
「桜の木」オーナー事業植樹地の訪問・

- 岩の原葡萄園

- (2) 「Jネットサロン」の開催

- ①東京地区会場：毎月第2水曜日

- 運営委員会事務局を会場に、参加費千円

- ②地区別会場：1名古屋地区 2大阪地区

- 3長野地区で予定

- (3) ふるさと農業・交流ツアード

- ①時期 5月27日（火）～28日（水） 田植え

- 10月中旬 稲刈り

## ◆総会等開催事業

- (1) 総会 5月24日（土）アルカディア市ヶ谷

- (2) 運営委員会 每月第2水曜日

- (株) 社会システム研究所内

- (3) 理事会 第1回 総会開催日（5月24日）  
第2回 平成16年1月

- (4) 「ふるさとカレンダー」の発行（12月）

- (5) イベント情報チラシ、特別賛助会員からのお知らせの送付（随時）

- (6) ホームページの充実とリンクの拡大

その後、予定時間を超過しての活発な意見交換が行われました。

- ◆議事  
第1号議案 平成14年度事業報告  
第2号議案 平成14年度決算報告  
同監査報告（水嶋監事）

- 第4号議案 平成15年度事業計画（案）

- 第5号議案 平成15年度予算（案）

- 規約改正

- 第6号議案 役員交代・退任

- 大海敏男理事→大澤実理事（高田農業高校卒業生  
会首都圈支部）

- 村田宏行理事→山岸孝博理事（上越青年会議所理  
事長）

- 柳澤武治理事→小林春芳理事（えちご上越農業協  
同組合代表理事組合長）

- 丸山義三監事→高橋稔監事

- について審議され、全案件が満場一致で承認されま  
した。

- (5) イベント情報チラシ、特別賛助会員からのお知  
らせの送付（随時）

- (6) ホームページの充実とリンクの拡大

- (4) 蓮の種の配布事業

## ◆会員募集事業

- 会員目標 900人

- (1) Jネットにより、Jネット会報等による募集

- (2) 平成14年度会員の継続加入の推進

- (3) 新規会員の募集

- (4) 複数年会員の募集

- (5) 会員名簿（追加分）の発行

## ◆広報事業

- (1) 「広報じょうえつ」の配布（月1回）

- (2) 「Jネットだより」の発行（月1回）

- (3) 「Jネット会報」の発行（年2回）

- (4) 「ふるさとカレンダー」の発行（12月）

- (5) イベント情報チラシ、特別賛助会員からのお知  
らせの送付（随時）

- (6) ホームページの充実とリンクの拡大

## ◆ふるさとのまちづくり支援

- (1) 市の各種委員会への参画

- (2) 文化公演会

- (3) 人材バンク事業

- (4) 蓮の種の配布事業

# 平成15年度 ふるさと上越ネットワーク予算

(平成15年4月1日～平成16年3月31日)

## ■収 入

単位：円

科 目	14 年度決算額	15 年度予算額	差 引 増 減	内 訳
会 費	2,747,600	2,975,400	227,800	<ul style="list-style-type: none"> <li>・個人会員 900人 @3,000×654人</li> <li>@2,900×246人</li> <li>・特別賛助会員 @50,000×6団体</li> </ul>
負 担 金	1,315,500	790,000	△525,500	<ul style="list-style-type: none"> <li>・総会参加者 @5,000×100人</li> <li>・ふるさと交流会参加者 @10,000×26人</li> <li>・特別賛助会員郵送物負担金 @10,000×3件</li> </ul>
交 付 金	4,500,000	4,500,000	0	・市交付金
継 越 金	727,511	1,640,836	913,325	
雑 入	20,331	764	△19,567	
<b>合 計</b>	<b>9,310,942</b>	<b>9,907,000</b>	<b>596,058</b>	

複数年入会費 預り金	複数年入会員 87人 (16年度以降)	522,000	収入に見込まず別会計として管理
---------------	---------------------	---------	-----------------

## ■支 出

単位：円

科 目	14 年度決算額	15 年度予算額	差 引 増 減	内 訳
広 報 事 業	4,307,918	5,600,000	1,292,082	
会員募集 事 業	734,586	1,100,000	365,414	<ul style="list-style-type: none"> <li>・入会案内チラシほか印刷 400,000</li> <li>・会員証印刷 100,000</li> <li>・消耗品など 200,000</li> <li>・通信運搬費 (勧誘ダイレクトメールなど) 400,000</li> </ul>
広報事業	3,573,332	4,500,000	926,668	<ul style="list-style-type: none"> <li>・会報印刷 700,000</li> <li>・市広報購入 (月1回/A4版) 900,000</li> <li>・ふるさとカレンダー印刷 800,000</li> <li>・レターヘッド印刷 (たより用紙) 100,000</li> <li>・封筒等印刷 250,000</li> <li>・定期郵送物配達料 1,500,000</li> <li>・その他 250,000</li> </ul>
交 流 事 業	1,265,449	1,950,000	684,551	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ふるさと交流会 500,000</li> <li>・講演会開催費 1,000,000</li> <li>・各地区サロン自主開催助成@1,000/人 200,000</li> <li>・負担金・消耗品 250,000</li> </ul>
総会等開催 事 業	1,138,155	1,230,000	91,845	<ul style="list-style-type: none"> <li>・理事会・総会開催費 350,000</li> <li>・懇親会開催費 850,000</li> <li>・通信費等 30,000</li> </ul>
事 務 費	958,584	1,127,000	168,416	<ul style="list-style-type: none"> <li>・通信費、手数料、消耗品など 287,000</li> <li>・Jネット運営委員会事務局費 840,000</li> </ul>
<b>合 計</b>	<b>7,670,106</b>	<b>9,907,000</b>	<b>2,236,894</b>	

# Jネット総会に思う

大和市  
萩野重夫（東本町四丁目出身）

去る五月二十四にアルカディア市ヶ谷に於いて東京地区総会が開催され、太田会長様と上越市の木浦市長様よりふる里の発展の現状と今後の情況を色々とお話しして頂き、毎月の広報誌等で分らない所がよく分り、私達にとつては嬉しいではありませんか。

総会がとどこおりなく終了し公演会では声楽模写・司会等で活躍中の丸山おさむさん（大町出身）を迎える里の方言をまじえながら、色々な物真似を披露して頂き笑いの連続でした。なごやかな雰囲気のさめやらぬうちに懇親会が始ま

一喜一憂し和氣あいあいのうちに懇親会も終りに近づき春日山節（かちどき）を会場のみんなで歌い来年の再会を約し盛況裡に終りました。来年はもっと多くの会員が参加して一層盛会にしたいものですね。一日も早く会員が一千人を超すよう努めようと思いつながら帰途につきました。

最後になりましたが、役員の方々と市企画課の皆様には大変お疲れ様でした。心からお礼申し上げます。



# 「運命の一球」

上越市Jネット事務局

関川正樹

ほか、ふるさと上越の応援団として上越市を支えていくことが謳われています。会員の皆さんには今後とも、上越が良くなると思われることで、感じていること、考えていること、何でも事務局にお寄せ下さるようお願いいたします。

私事になりますが、長男は今高校二年。野球に「バカ」になつて毎日真っ黒になつて帰宅しています。毎日夜九時一〇時の部活で、雑巾のようにクタクタで帰る姿を見ていると、親としては学業への心配はあるものの、本人が「今」打ち込めるものを持つ彼は、かけがえのない宝物を探しているのだと羨ましくも思われます。

息子の野球に触発され、最近読みなされたのが、山際淳司の野球に関するノンフィクション。「ストーカーブ」をもう一度、「八月のカクテル光線」「江夏の21球」などなど。

お集まり頂いた会員の皆さんは、ふるさとの熱い想いを胸に様々な分野で活躍しておられる方々で、お話を伺うと私も心を持っておられます。

Jネットの目的の中に、会員の親睦の

などの文章を思い浮かべながら、練習試合の応援に出かけている今日此の頃です。

## （閑話休題）

Jネットの会員は全国に広がっていますが、残念ながら総会・懇親会にご出席頂ける方は関東近畿の方々です。全国の会員の皆さんのが一堂に会すれば楽しいだろうと思うのですが、物理的に困難です。せめて事務局として、月々の「たより」や年二回の「会報」の充実を図り、皆さんとの絆を強めて参りたいと存じます。

冒頭、たった「一球」が云々と書きましたが、会員の皆さんとのJネットとの関わりが、運命の「一球」となれるよう、入会して良かったと思っていただけるよう、事務局として努力してまいります。今後ともよろしくお願いします。

